

米軍基地による赤土汚染について

満本裕彰

Water Pollution by Red Soil Erosion on U.S Military Base

Hiroaki Mitsumoto

要旨：沖縄の米軍基地に起因する赤土流出・汚染についてこれまでの歴史的経緯などについてまとめた。1950年代をピークに米軍基地内では多くの施設造成・建設工事によって大量の赤土が流出したと思われるがそれに関する記録はみられず、米軍基地からの赤土流出の記録が残されているのは1960年に入ってからであると思われる。米軍基地内の赤土流出源は、施設造成・建設工事の他に着弾地、廃弾処理場、裸地道路及び法面が挙げられ、特に名護市の久志岳を中心とする山岳・森林地帯に位置するキャンプ・シュワブ内のシュワブ訓練地区と恩納村から名護市、宜野座村に連なる山岳部に位置するキャンプ・ハンセン内のハンセン訓練地区を合わせた中部訓練地域には演習等に伴う裸地が存在し、降雨時には基地内を流れる河川からの赤土流出が慢性的なものとなっている。米軍基地内の施設造成・建設工事における赤土等流出防止対策（以下、防止対策）は、1990年代前半までは主に土砂（災害）対策であり土壌微粒子の流出抑制にはあまり効果がなかったと思われる。施設造成・建設工事に本格的に防止対策が実施されたのは沖縄県赤土等流出防止条例（以下、赤土条例）施行後であると考えられ、那覇防衛施設局の事業に関しては、条例に基づく通知等から防止対策が実施されていると判断されるが、米軍の直轄工事については基地内の立ち入りが制限されていることもあり分からない。またそれ以外の裸地においても、防衛施設局及び米軍海兵隊によって防止対策が実施されており赤土流出・汚染は改善していくものと思われる。

Key words：赤土汚染，赤土等流出防止対策，沖縄県赤土等流出防止条例，在沖米軍基地

はじめに

沖縄の環境問題の一つである赤土汚染は、県内はもとより県外でも広く知られるところである。この原因となる土壌侵食は、自然的要因に人為的要因が加わることで土壌がかく乱され加速的に引き起こされる。土壌侵食の自然的要因には降雨、地形、土壌、植生要因があり、自然的要因だけの場合、土壌侵食は微少でその風化生成と均衡を保っている¹⁾が、人為的インパクトが加わることでこの均衡が破壊され¹⁾、防止対策が実施されていなければ大量の赤土が河川・海域へ流出する。人為的インパクトには、既存農地、開発事業、米軍基地内の裸地などがあり、特にこれら3つは年間流出量の90%以上を占める²⁾ことから三大流出源と位置づけられる。これまで赤土汚染の歴史的経緯について記述されている文献³⁾は、三大流出源の中でも既存農地や開発事業及び総論的なものはいくつかあるが、米軍基地についてはあまり見られない。そこで、今後の資料とするために既存の文献及び筆者らによる調査から米軍基地に起因する赤土汚染につ

いてまとめた。ただし、筆者が把握している以外にも資料・文献等があると思われることを付しておく。

なお、本報告では赤土という用語には、それ以外の沖縄に分布する土壌等を含むものとする。

米軍基地からの赤土流出事例

既存の資料・文献から、米軍基地に起因する赤土流出事例についていくつか解説する。また、図1に関連する米軍基地の位置図を示した⁴⁾。

a 第二次世界大戦（1941～1945年）終戦後～1960年代

1945（昭和20）年4月1日に沖縄島への上陸を果たした米軍は、（略）南西諸島とその周辺海域を占領地域と定め、日本の司法権、行政権の行為を停止し、軍政を施行することを宣言した⁴⁾。

占領当初においては、（略）米軍の極東政策上特に重要な基地としての認識はされていなかった⁴⁾。

しかし、1949（昭和24）年の中華人民共和国の成立、1950（昭和25）年の朝鮮戦争の勃発等極東における国際

情勢の変化（略）で、沖縄の戦略的価値が再び認識されるようになった⁴⁾。こうした国際情勢を背景に、米国は沖縄の長期保有と在沖米軍基地の機能強化を図る方針を打ちだし、（略）1950年代をピークとした米軍による土地の強制接収を沖縄島中部地域を中心に行い、広大かつ過密な米軍基地を構築していった⁴⁾。基地対策室資料⁴⁾によると、約1200万ドルにものぼる大規模な軍事基地の造成・建設である。当時は、赤土汚染に対する認識がほとんどないことから防止対策もほとんど実施されず、降雨時には大量の赤土が河川・海域へ流出したものと思われるが、記録は残されていないようである。

1960（昭和35）年9月には渡嘉敷村においてホーク基地建設に伴い、水源池に赤土が流入し簡易水道の水が濁るといふ赤土流出が起きており、これが米軍基地に起因する赤土汚染が初めて報道され記録されたものであると思われる。またこの時期は、ベトナム戦争（1950年代末～1975年）に伴う基地建設工事⁵⁾が進められ、工事による赤土流出が推定されるが、記録は残されていないようである。その後、米軍基地に起因する赤土汚染についての記録は1977（昭和52）年になるまでみられない。

§ 1970～1990年代前半

1977年3月、キャンプ・シュワブ内の中部訓練地域で米海軍による幅員約10m、全長約2,200mになる戦車用道路建設工事が進められているのが判明する。土砂止めもない安易な工法で進められており、工事現場近くには水源池があるため赤土流出による取水への被害及び漁業被害が懸念された。その後、総延長23.4kmにわたる大規模な工事であることが判明するなど、この工事に関連する新聞報道は水源池の汚染などを含め1978（昭和53）年3月までの約1年間にわたって続いている。

沖縄県渉外部資料¹⁰⁾にも、異例の基地被害として被害状況や米軍及び那覇防衛施設局の対策等が詳しく記載されている。

1987（昭和62）年1月、国頭村の北部訓練場におけるハリヤーパッドの建設が問題となるが、地元の強い反対に遭い中断する。3月には防衛施設局によって赤土防止対策の調査が実施され、12月には米軍が建設予定地の測量に入るが区民の反対に遭い中止し、その後北部訓練場での建設を断念している。

また宜野座村では、1987年6月3日から古知屋岳の通称クダキ（小岳）と呼ばれている分水嶺で地元や県への通知なしに米軍直轄によるヘリパッドが建設され問題となる。近くには水源池のダムが3基あり、梅雨時期のためダムへの赤土流出が懸念された。そこで、県や村の申し

入れを受け現場監督の米軍海兵隊軍曹が工事を一時中止したが、米軍海兵隊広報課は植生などの赤土防止対策を実施するなど措置を講ずるとし、工事を継続する方針を示した。そして、6月11日にはこれまで濁ることのなかった2基のダムが赤土汚染の影響を受けておりヘリパッド工事の影響があると指摘された。

1989（平成元）年9月、恩納村の沖縄国定公園の海岸に都市型戦闘訓練施設建設現場からと推測される赤土流出があり、近くのシャコガイ養殖場にも達し海域環境や観光及び漁業への影響が懸念された。10月には県、村の立ち入り調査が実施されたが、防止対策は一部芝生の敷設や流出防止柵があるものの不十分なため、当該事業現場からの赤土流出の形跡が認められた。そこで、日本政府予算により赤土流出防止のための環境整備工事が行われ、1990（平成2）年3月に完成した⁴⁾。その後、都市型戦闘訓練施設は、県の要請により1992（平成4）年7月までに撤去された⁴⁾。

1992年5月、宜野座村松田から名護市のキャンプ・シュワブにかけて戦車道拡張工事が進められているのが確認される。これは、米軍による直轄工事で民間業者に委託されて行われたものであるが、宜野座村への通知は無く1月前から実施されており、将来的にはキャンプ・ハンセンまで連結し基地間を軍用車両が直接移動できるようにするものである。当時の宜野座村長及び議会は、赤土汚染及び基地強化につながるとして工事の中止を要請するなどの抗議を起こしている。防止対策は、ステラシート柵とコーラル敷設程度であった。

d 1990年代後半～

1997（平成9）年2月に沖縄市にある泡瀬通信施設南側の制限水域内護岸の修復工事に伴い濁水が発生した。海水の浸入を防ぐ土砂の堰堤が侵食されたために起こったものである。沖合では、定置網が設置されており海域への被害が懸念された。沖縄市や県環境保全室等は、環境へ悪影響があるとして防止対策を講じるよう求めた。なお、1995（平成7）年10月に赤土条例が施行され面積1,000g以上の事業行為（土地の区画形質を変更する行為）は、県知事への通知・届け出及び防止対策の実施が義務づけられているが、泡瀬通信施設護岸工事は米海軍による直轄工事のため日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第六条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国軍隊の地位に関する協定（地位協定）の基地管理権の除外規定により赤土条例の適用を受けないため通知・届け出及び防止対策実施の義務はない。

これ以降、米軍基地内の施設造成・建設工事に関わる大々的な流出事例は報道されていないようである。

しかしながら、米軍基地からの赤土流出はこれらの施設造成・建設工事以外に演習等に伴うものがあり、特に県道104号線越え砲弾演習（1973（昭和48）年3月30日から開始され1997年3月4～7日までの180回実施（天候不良等による中止を除いた実施回数）⁴⁾）に代表される実弾射撃演習着弾地には、金武湾に流入する河川の源流があり、降雨時（直後）には表1に示した事例⁶⁾のように赤土流出・汚染が慢性的に起こっている。

表1. 金武町石川川の降雨時等SS. 米軍基地敷地境界で採水.

年月日	時刻	状況	SS (mg/ℓ)
1993/7/29	10:49	降雨	509
1995/3/16	13:14	降雨	57
1995/6/16	11:18	降雨	40
1996/2/25	9:44	降雨	42
1996/3/21	13:19	降雨	100
1996/5/29	10:55	降雨	33
1997/1/14	14:02	平常	3
1997/4/14	11:00	降雨	399
1998/5/18	14:19	降雨	36

赤土流出源

米軍基地に起因する赤土汚染の流出源として、施設造成・建設工事や実弾演習に伴うもの及び既存の裸地が挙げられる。施設造成・建設工事に関しては、さらに那覇防衛施設局の事業と米軍直轄工事に分けられ、これまでの事例から赤土流出が問題となっているのは米軍の直轄工事によるものである。演習に伴う赤土流出は、主に中部訓練地域で実施されている榴弾砲等の実弾射撃演習や不発弾処理を行う廃弾処理場に起因している。また戦車道及び進入道では、舗装部分や法面に植生が実施されている場所もあるが、一部の裸地道路や法面では侵食によりガリができています。

これらの赤土流出による被害には、ダム等の水源地への影響、養殖業や定置網等の漁業被害及び海域環境への悪影響がある。

仲宗根ら²⁾によると、1996（平成8）年度における米軍基地の総面積は24,450haで、そのうち流出量が最も大きくなる裸地面積は66haになり、米軍基地から流出する赤土等の年間流出量は28,500tで沖縄県の赤土等年間流出量の約11%になるという。

赤土流出実態

米軍基地内への立ち入りは制限されているため、当研

究室では米軍基地による赤土流出・汚染の実態調査として、降雨時（直後）に敷地境界から河川水を採取し随時モニタリングしており、その結果、程度の差はあるが米軍基地から赤土流出が確認されている。このうち源流に着弾地があり貯留型砂防ダムが数基設置されている金武町加武川及び石川川について河川水のSSから貯留型砂防ダムの効果等について解析⁷⁾したが、その効果は明らかにならなかった。

また、1997年には琉球大学とハワイ大学の共同プロジェクト（米軍基地内の動植物及び環境調査プロジェクト）に基づく中部訓練地域内の貯留型砂防ダム建設予定地における環境アセスの共同研究として同プロジェクトからの依頼により米軍基地内の立ち入り調査が可能となり、米軍基地内4河川の底質中懸濁物質含量と底生動物の関係について報告している⁸⁾。同調査によって米軍基地内の演習による赤土流出は着弾地点に限らず、裸地状態の廃弾処理場や周辺道路及び法面等も大きな流出源となっていることが判明した。したがって、同報告書では個々の流出源対策によって河川への影響を最小限に抑えることが重要であり、可能と考えられるとしている。

さらに、ギンバル訓練場（金武町）においては、1997年から地先海域の底質を採取し懸濁物質含量（SPSS）⁹⁾を測定しており、調査年によってSPSSに変動が見られるが、ギンバル訓練場の裸地面積に大きな変化がない（1999年4月時点）ことから、SPSSは降水量や波浪などの気象条件に影響されるものと推察している。

赤土等流出防止対策

前述した赤土流出・汚染事例（米軍の直轄工事）では、ステラシート柵や土砂溜柵などの防止対策を実施していたものもあるが、土砂（災害）対策としてであり、沈殿池等の防止対策は見られないため土壌微粒子の流出抑制にはあまり効果がなかったと思われる。

米軍基地内の施設造成・建設工事において本格的に防止対策が実施されたのは、赤土条例が施行されてからであると考えられる。防衛施設局の事業については、赤土条例に基づく通知等から防止対策も実施されていると判断されるが、米軍の直轄工事は、赤土条例の適用を受けず基地内への立ち入りが制限されていることもあり、防止対策も含め実施状況は分からない。

また、施設造成・建設工事以外の裸地における発生源対策として、那覇防衛施設局では1999（平成11）年度までに中部訓練地域等において道路等のコーラル敷設や緑化を19.0ha実施している。また、1980年頃から中部訓練

地域内を流れる河川への貯留型砂防ダムの設置を計画・実施し、着弾地等からの赤土流出を抑制している²⁾。貯留型砂防ダムとは、流域内の流水を全量貯留し土粒子を自然沈降した後、濃度の低い表層部分からフロートを使用し排出する施設である。貯留型砂防ダムの総計画数は、23基で2000年度までに11基が完成（予定も含む）している。

米軍海兵隊環境保全課では、容易には人や作業車が近づけない着弾地にヘリコプターを用いて空中から接近し草木の種子や侵食防止剤を散布し緑化することを計画・実施している³⁾。1998（平成10）年3月には金武町のギンバル訓練場で、1998年10月には中部訓練地域内ジャフン岳の着弾地で試験散布を行い、1999年10月に中部訓練地域内ライフルレンジRange4で本施工が行われた。緑化後、Range4で行われていた訓練は、他のレンジで行い、一定期間経過すると訓練する場所と緑化する場所を入れ替えていく。2000（平成12）年10月現在、緑化しているRangeはRange4他3ヶ所であり、今後も計画されている。この他にも道路等への緑化も実施している。このように、自然保護・環境保全の立場に立った着弾地等に対する防止対策が進められており、赤土流出状況も改善していくものと思われる。しかし、仲宗根ら²⁾は、これらの防止対策について次のような問題を指摘している。貯留型砂防ダムは、河川を遮断することにより生物の移動が分断されるなど新たな自然環境破壊が考えられる。また着弾地の緑化は、基地返還後の不発弾撤去の大きな障害となる。

ギンバル訓練場は、毎年旧暦3月3日前後には一般に開放されることからこの時期に海域の底質採取及び流出源調査を実施している。ギンバル訓練場内の裸地約50,000gは地先海域の主な赤土流出源となっている³⁾が、2000年3月現在、金武町によって裸地部へ種子散布等の防止対策が実施されているのを確認した。

まとめ

1. 1950年代をピークにした米軍基地内の施設造成・建設工事によって大量の赤土が流出したと思われるが記録はみられず、米軍基地による赤土汚染が記録に残されているのは1960年に入ってからであると思われる。
2. 米軍基地における赤土流出源は、施設造成・建設工事の他、着弾地、廃弾処理場、裸地道路及び法面が挙げられる。特に、中部訓練地域には広範囲に裸地が存在し、降雨時には基地内を流れる河川から赤土流出が慢性的なものとなっている。

3. 当研究室では、米軍基地に起因する赤土流出・汚染の実態調査として降雨時（直後）に米軍基地との敷地境界から河川水を採取しモニタリング⁶⁾している。また、ギンバル訓練場では地先海域の底質を採取し懸濁物質含量（SPSS）を測定し報告⁹⁾している。

4. 1990年代前半までの施設造成・建設工事における防止対策は、主に土砂（災害）対策であり土壌微粒子の流出抑制にはあまり効果がなかったと思われる。施設造成・建設工事に本格的に防止対策が実施されたのは赤土条例施行後であると考えられ、那覇防衛施設局の事業に関しては条例に基づく通知等から防止対策が実施されていると判断されるが、米軍の直轄工事については基地内の立ち入りが制限されていることもあり分からない。またそれ以外の裸地への防止対策として、那覇防衛施設局では道路等のコーラル敷設や緑化及び砂防ダムの建設が実施されている。米軍においても道路等や着弾地の緑化が実施されているため、米軍基地に起因する赤土流出・汚染は改善していくものと思われる。

おわりに

本報告を作成するにあたり参考、引用した新聞記事は、記事内容等を合わせて記載するとこれまでの経過が分かりやすいと考え末尾表に示した。

I 参考文献

- 1) 翁長謙良（1986）沖縄島北部地方における土壌侵食の実証的研究。琉球大学農学部学術報告第33号，pp111-209。
- 2) 仲宗根一哉・比嘉榮三郎・満本裕彰・大見謝辰男（1998）沖縄県における赤土等年間流出量（第2報）—赤土等流出防止条例施行後の年間流出量の推算—。沖縄県衛生環境研究所報，32：67-72。
- 3) 例えば、池原貞雄・加藤祐三編著（1997）沖縄の自然を知る。
- 4) 沖縄県総務部知事公室基地対策室（1998）沖縄の米軍基地。
- 5) 沖縄タイムス（1960）1月19日の記事。
- 6) 大見謝辰男・比嘉榮三郎・仲宗根一哉・満本裕彰（1998）沖縄島と久米島の赤土等による河川の濁りについて。沖縄県衛生環境研究所，32：149-159。
- 7) 満本裕彰・大見謝辰男・比嘉榮三郎・仲宗根一哉（1999）米軍基地内を流れる河川の赤土流出状況について。沖縄県衛生環境研究所，33：77-82。
- 8) 仲宗根一哉・満本裕彰・与那嶺正人・岸本高男・比

嘉榮三郎・大見謝辰男（1998）米軍基地内河川の
底質中懸濁物質含量と底生動物に関する調査研究．
沖縄県衛生環境研究所，32：161-167．

9) 仲宗根一哉・満本裕彰・大見謝辰男（1999）米軍
ギンバル訓練場地先海域の底質中懸濁物質含量．
沖縄県衛生環境研究所報，33：147-152．

10) 沖縄県渉外部（1979）沖縄の米軍基地．



図1 沖縄島の米軍基地

末尾表・米軍基地による赤土流出・汚染に関する新聞記事。(夕):夕刊。

No.	年月日	内容	新聞社	関連市町村	関連基地
1	1960/9/30	水道の水にごる/ミサイル基地建設の影響で/渡嘉敷村善処を訴う	沖縄タイムス	渡嘉敷村	ホーク基地
2	1960/10/10	変わりゆく渡嘉敷島/順調に進むホーク基地	琉球新報	渡嘉敷村	ホーク基地
3	1960/10/12	"赤い水道"に悲鳴あぐ/真栄田 山田/両区ホーク基地建設で	琉球新報(夕)	恩納村	ホーク基地
4	1977/3/28	米軍、戦車用道路を建設/キャンプシュワブ内/全長2200メートル規模/基地強化と水源地汚染で/名護、抗議		名護市	キャンプ・シュワブ
5	1977/3/30	宜野座の水源地が使用不能/自然破壊の荒工事/県、名護市など現地調査/米軍戦車道路		名護市, 金武町	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
6	1977/4/1	防止施設をつくる/奥山・施設局長/水源地汚染で回答/演習場内の戦車道工事		名護市	キャンプ・シュワブ
7	1977/4/8	米軍戦車道建設/公共への配慮全く無し/地位協定にも反する/屋部副知事ら現地調査/工事中止を再要請		宜野座村	キャンプ・ハンセン
8	1977/4/11	"工事中止"の声高まる/水源地、造林に大きな痛み		名護市, 宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
9	1977/4/12	戦車道工事被害/住民地域で出始める/養鰻場に赤土流入/シラスの放流取り止め	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
10	1977/4/12	梅雨入り控え不安深刻/水源汚染は必至/戦車道地域住民/タンク設置要求も	沖縄タイムス(夕)	名護市, 宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
11	1977/4/12	赤土流水の恐れ/県環境整備課長ら/ダム浄水能力に限界	沖縄タイムス(夕)	名護市, 金武町	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
12	1977/4/12	松田ダム 赤土流入の恐れ/県環境保健部 戦車道工事を調査/早期対策が必要/水質汚濁で給水	琉球新報(夕)	名護市, 宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
13	1977/4/12	「戦車道」で試験事業ピンチ/雨期には汚染必死/県農水部、対策で苦慮/南明治山		名護市	キャンプ・シュワブ
14	1977/4/13	林業試験地にも多大の被害/戦車道工事/立木、8000本根こそぎ/赤土で谷埋まり/シイタケ栽培	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
15	1977/4/13	被害対策で現場調査/県農林水産部土砂流出などを懸念	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
16	1977/4/14	ひどい工事にあ然/戦車道建設問題/県議団が現地調査		名護市, 宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
17	1977/4/14	今月中に補償請求へ/県、戦車被害のまとめ急ぐ		—	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
18	1977/4/14	ろ過装置などで対策/施設局の根本次長/稲嶺沖特委員長に説明/戦車道問題	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
19	1977/4/16	これが戦車道だ		名護市, 宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
20	1977/4/17	宜野座村宜野座/給水をストップ/浄水場に赤土流入/戦車道工事の影響/浄水能力、大幅に低下	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
21	1977/4/17	基地内であっても許されるべきでない/戦車道建設で弁護士会	琉球新報	—	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
22	1977/4/17	雨一時的で救われる/戦車道からの/赤土流入まだない/名護市許田水源地		名護市, 宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
23	1977/4/18	米軍戦車道工事の宜野座村宜野座区/ダム 赤土で汚染	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
24	1977/4/21	赤土、漁網を汚す/漁場汚染の増大懸念/戦車道被害に新たな不安/金武湾一帯	沖縄タイムス(夕)	石川市	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
25	1977/4/22	自然災害誘発の恐れ/戦車道建設/県環境保健部が調査		—	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
26	1977/4/23	戦車道/コストを変更/ダム下流、赤土流出の恐れ		宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
27	1977/4/23	戦車道建設現場の調査結果		名護市, 宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
28	1977/4/26	戦車道建設中止を/山崎局長「補償方法を検討」		—	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
29	1977/5/10	戦車道近くの浄水場/梅雨で赤土流出寸前/区民、水汚染におののく/ろ過装置が必要	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
30	1977/5/10	宜野座村区の水道全面ストップ/戦車道から流出/朝食準備もできず怒り	沖縄タイムス(夕)	宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・
31	1977/5/11	宜野座村区の水源地汚染/給水車で急場しのぐ/学校給食にも支障/断水続く、米軍は知らん顔	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・

No.	年月日	内容	新聞社	関連市町村	関連基地
32	1977/5/16	水道から赤土/名護市許田/戦車道建設が影響/区民、パイプ敷設へ	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワ
33	1977/5/18	広がるダム汚染/米軍砂防工事、ずさん/宜野座村松田/20日、行政委で対策協議	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
34	1977/6/2	再び”赤い海”に/宜野座海岸/戦車道の赤土流出/漁民がっかり/モズク漁もできず	沖縄タイムス(宜野座村	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
35	1977/7/31	こんどは宜野座貯水池が/米海兵隊”戦車道汚染”/大量の赤土が流入/無謀な排水溝/あまり	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
36	1977/8/24	いつまでにごり水飲ますの/赤土汚染に住民怒る/宜野座浄水場ろ過装置機能せず	琉球新報(夕)	宜野座村	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
37	1978/2/15	川・海、赤土で汚れる/名護市の辺野古一帯/米軍の戦車道が影響?	琉球新報(夕)	名護市	キャンプ・シュワ
38	1978/3/16	戦車道で汚染された/”辺野古川、元に戻せ”/名護市長/米軍、防衛庁、施設庁に要請	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワ
39	1978/6/5	原因は基地からの赤土/読谷村の海岸汚濁/弾薬庫周辺で道路工事/養殖モズクが壊滅的な被害	琉球新報(夕)	読谷村	嘉手納弾薬庫
40	1978/6/6	赤土流出源は嘉手納基地/道路工事の土放置/読谷漁協補償請求のかまへ	沖縄タイムス	読谷村	嘉手納弾薬庫
41	1978/6/13	大量の赤土を放置/嘉手納弾薬庫地域の道路工事/ズサンな事後管理で汚染	沖縄タイムス	読谷村	嘉手納弾薬庫
42	1979/6/12	海岸約10キロにわたり赤土/読谷/嘉手納基地から流出?/怒る地元住民	沖縄タイムス	読谷村	嘉手納飛行場
43	1979/6/12	沿岸8キロが赤土汚染/読谷/モズク壊滅的打撃/長田川上流/基地開こんが原因	琉球新報	読谷村	—
44	1979/6/15	ひどくなる一方の赤土汚染/養殖漁、壊滅的打撃/ズサンな米軍工事	沖縄タイムス	読谷村	嘉手納飛行場
45	1980/7/23	赤土汚染に不安/北谷町民/米軍宿舎の宅地造成で/桑江海岸	沖縄タイムス	読谷村	キャンプ桑江
46	1980/10/5	北部の戦車道後遺症/海、川へ赤土流出/大切な緑失い水源地も濁水	琉球新報	名護市, 宜野座村, 金武町	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
47	1980/10/25	演習被害、広がる一方/ブト岳/雨のたび土砂流出/漁場の汚染もひどい/金武町 恩納村/対策	沖縄タイムス(金武町, 恩納	中部訓練場
48	1980/12/17	進む赤土汚染に”歯止め”/県公害対策課/乱開発、米軍演習たたる/実態掌握へ調査	沖縄タイムス(—	—
49	1983/3/4	海の赤土汚染防止/県、金武町をモデル地区に指定/新年度からスタート/条例作りクリン作戦	琉球新報	—	—
50	1983/8/2	基地からの赤土流出防止に/砂防ダムを建設を/金武町議会が県に要請	沖縄タイムス	金武町	金武ブルービーチ訓練場, キャンプ・ハンセン
51	1984/8/14	北部の自然にも破壊の波/無差別な米軍演習/立ち遅れた保護育成/生態系も根底から崩れる	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワ
52	1984/9/8	森林破壊つづく米軍基地内/米軍の住宅建設を再開/新たに集落跡地調査も打診	沖縄タイムス	北谷町	嘉手納飛行場
53	1985/2/10	一雨ごとに赤土流出/宜野座村近海/定置網、モズク漁にも影響/漁師ら不安訴える	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
54	1985/5/13	う回戦車道建設へ/総合事務局などが計画/漢那ダムの工事で	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
55	1985/5/28	米軍住宅地造成地から土砂流出/北谷町の漁場を汚染	琉球新報	北谷町	嘉手納飛行場
56	1985/6/12	赤土/また北谷の漁場汚染/住宅建設現場から流出/嘉手納基地	沖縄タイムス	北谷町	嘉手納飛行場
57	1985/7/7	赤土流出に泣く海/北谷/基地内から雨の度/漁民への補償もされず	琉球新報	北谷町	嘉手納飛行場
58	1985/7/8	浦崎康克課長/宜野座村総務課/赤土汚染で被害大/監視を強め防止策急ぐ	琉球新報	宜野座村	—
59	1987/1/9	山頂部の山肌/無残/米海兵隊のハリア 機訓練場建設	沖縄タイムス	国頭村	北部訓練場
60	1987/2/15	喜瀬武原ダム建設工事スタート	沖縄タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
61	1987/3/7	ハリア パッド建設予定地/赤土流出防止で調査/施設局が住民立ち会いで	琉球新報	国頭村	北部訓練場
62	1987/3/11	測量、土質の調査終える/赤土流出防止で総合事務局	琉球新報	国頭村	北部訓練場
63	1987/3/27	近く赤水防止工事/那覇防衛施設局	琉球新報	国頭村	北部訓練場
64	1987/4/12	あすから土砂流出防止工事に着手/ハリア 訓練場建現場	沖縄タイムス	国頭村	北部訓練場
65	1987/4/14	土砂流出防止工事に着手/ハリア 基地で施設局	沖縄タイムス	国頭村	北部訓練場
66	1987/4/15	土砂流出防止工事へ/国頭村安波ハリア 基地撮影、測量始める	沖縄タイムス	国頭村	北部訓練場
67	1987/5/7	防衛施設局/福地川上流に貯水タンクを新設/戦車道建設の赤土汚染で	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワ
68	1987/5/9	水源地移転に”赤信号”/米軍が基地内の道路使用にクレーム/許田区民抗議へ	—	名護市	キャンプ・シュワ
69	1987/5/10	やむを得ぬ場合は自衛隊車で水運ぶ/戦車道汚染で許田区、施設局と折り合う	—	名護市	キャンプ・シュワ
70	1987/5/24	収穫最盛期のモズク絶望/山手で農地開発/戦車道工事/ダム関連	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン、キャンプ・
71	1987/6/3	赤土流出対策で逆汚染/金武ブルービーチ/米軍がズサンな工事?	琉球新報	金武町	金武ブルービーチ訓練場
72	1987/6/6	宜野座村にヘリ・パッド建設/米軍が抜き打ち着工/水源かん養林/分水嶺削り取る	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
73	1987/6/6	人道に反する行為/米軍のヘリ・パッド建設	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
74	1987/6/6	「区挙げて阻止する」/宜野座村ヘリポート建設/山の頂上削り取る	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン

No.	年月日	内容	新聞社	関連市町村	関連基地
75	1987/6/6	海、その痛ましい現状/宜野座村海岸/雨のたびに赤土流出	琉球新報	宜野座村	—
76	1987/6/6	米軍宜野座村にヘリポート/兵士らが整地作業	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
77	1987/6/7	ああ無残/樹海切り崩す米海兵隊のヘリ・パッド建設	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
78	1987/6/7	山頂えぐり取る米軍ブル/宜野座のヘリポート建設現場	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
79	1987/6/7	これが山頂のヘリ発着場	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
80	1987/6/8	ヘリ・パッド工事を一時中止/米軍、申し入れ受諾	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
81	1987/6/8	工事現場を復元せよ/ヘリ・パッド/中程宜野座村長怒る	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
82	1987/6/8	水源汚染は避けられぬ/社会党県本、共産党県委が抗議	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
83	1987/6/8	宜野座の米軍ヘリ発着場建設/抗議よそに工事強行	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
84	1987/6/8	”ダム汚染は必至”/米軍ヘリ発着場建設/原状回復を要求/隣接の宜野座区も行動へ	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
85	1987/6/9	ヘリ・パッド/工事中止の考えなし/赤土防止・植林実施/海兵隊報道部”既設改修”を強調	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
86	1987/6/9	新たな進入道路も	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
87	1987/6/9	琉球松も無残/宜野座・米軍ヘリ発着場	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
88	1987/6/11	樹木なぎ倒し、山を裂く/宜野座村の米軍ヘリ発着場	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
89	1987/6/12	やはり汚染していた/潟原ダム	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
90	1987/6/12	ダム水、分析調査へ/ヘリ・パッド/二つの水源が汚染	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
91	1987/6/12	新たに野戦訓練地/宜野座福山区/有刺鉄線、大型テント設営/村民の怒り頂点に	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
92	1987/6/12	ざん壕掘り続く/対戦車訓練施設設営/激しい軍用車の往来	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
93	1987/6/12	ダムが赤土汚染/宜野座第一/ヘリ発着場建設で	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
94	1987/6/12	”赤土汚染防止工事やりたい”/米副総領事/ヘリ発着場で答える	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
95	1987/6/13	米軍のヘリ・パッド建設で汚染/飲料水に適さない/潟原ダムと宜野座第一ダム/水質検査で判	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
96	1987/6/14	ヘリ・パッド問題/「水源汚染たまたまらぬ」/慎重な村当局が村民大会を決議	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
97	1987/6/26	ヘリ発着場問題/流出防止にコラル敷く/赤土汚染で米軍が到達	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
98	1987/7/30	大型沈砂施設の建設へ/赤土流出対策で会議/農家の意識高揚も必要/砲弾演習の影響大/県赤	沖縄タイムス(—	—
99	1987/8/27	米軍が赤土流出防護柵設置/宜野座・ヘリ発着場/だが-大雨には大丈夫?/植栽もまだ/山肌を	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
100	1989/1/14	河川工事の伐採が安易/宜野座村が赤土流出パトロール/米軍の戦車道建設も原因	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
101	1989/4/18	「汚れた水が飲めるか」/喜瀬武原区の簡易水道/米軍の無謀さに怒り/ヘリパッド建設で赤土	沖縄タイムス	恩納村	キャンプ・ハンセン
102	1989/4/19	簡易水道の赤土汚染/ヘリパッドから流出/防止対策なく工事ズサン/基地内調査で判明	沖縄タイムス	恩納村	キャンプ・ハンセン
103	1989/4/19	喜瀬武原/水道から赤い泥水/米軍ヘリパッドの赤土流出/区の水源地を汚染	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセン
104	1989/6/16	港の詩<25>/金武地区船たまり場/米軍演習による被害続く/養殖漁業へ転換迫られる	琉球新報	金武町	—
105	1989/9/19	大量の赤土流出で汚染/米軍の「訓練施設」工事が原因か/観光・漁業に深刻な打撃/基地立ち	沖縄タイムス	恩納村	キャンプ・ハンセン
106	1989/9/19	論壇/工事は即刻中止せよ/都市型戦闘訓練施設は無意味	沖縄タイムス	恩納村	キャンプ・ハンセン
107	1989/9/19	基地立ち入り調査要求へ/恩納村「原因は米軍工事・・・」/赤土大量流出/県、現地に職員派	沖縄タイムス(恩納村	キャンプ・ハンセン
108	1989/9/19	恩納村の国定公園海岸/赤土で真っ赤に/米軍工事で流出か/漁業に重大な影響	琉球新報(夕)	恩納村	キャンプ・ハンセン
109	1989/9/22	基地内調査を要請/恩納村の赤土流出/村長が施設局に	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセン
110	1989/10/1	視点/米軍基地からとみられる赤土流出/恩納村/観光資源の海を汚染	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセン
111	1989/10/17	赤土流出は工事が原因/都市型戦闘訓練施設/県が立ち入り調査	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセン
112	1989/10/20	原因は米軍施設建設現場/恩納村の赤土流出問題/村が立ち入り調査実施/ずさんな工事を指摘	沖縄タイムス	恩納村	キャンプ・ハンセン
113	1989/10/20	都市型戦闘施設/ずさんな工事に怒り/恩納村が現地調査/再び赤土流出の恐れ	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセン
114	1989/12/5	赤土防止工事実施へ/都市型戦闘訓練施設/防衛施設庁が「思いやり」で	沖縄タイムス	恩納村	キャンプ・ハンセン
115	1989/12/15	環境保全・公害防止研究発表会/開発規制を急げ/沖縄から/赤土汚濁の現状を報告	沖縄タイムス	—	—
116	1990/4/13	原因究明阻む演習場/金武・宜野座の赤土流出対策/防止条例を制定、監視/米軍実弾演習場/	沖縄タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
117	1991/7/17	赤土対策無視で工事/町、漁業関係者が視察/雨が降れば被害確実/キャンプ桑江	沖縄タイムス	北谷町	キャンプ桑江
118	1991/7/17	基地内建設現場から赤土/漁港内に流入/「被害は甚大」怒る漁民/北谷町のキャンプ桑江	琉球新報	北谷町	キャンプ桑江
119	1992/2/16	キャンプ・ハンセン/演習場から大量の赤土/本島中北部/海上数キロに泥の帯	沖縄タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
120	1992/3/20	道路いっばいに赤土/米軍車両がまき散らす/宜野座	沖縄タイムス	宜野座村	—
121	1992/3/20	米軍が大規模野営訓練/宜野座村福山区近く/赤土汚染に住民苦情/キャンプハンセン	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
122	1992/3/30	演習場から赤土海へ/宜野座/モズク収穫に影響	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
123	1992/4/5	赤土流出/モズクに打撃/造成地や米軍基地から/養殖網は真っ赤/演習、県の対応に怒り	沖縄タイムス	恩納村・宜野座村・金武町	—
124	1992/4/9	恩納村の赤土汚染/元凶は米軍演習場/行政指導でできず悪化の一途	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセン
125	1992/4/13	モズク漁ピンチ/赤土流出で収穫ストップ	沖縄タイムス	宜野座村・金武町	—

No.	年月日	内容	新聞社	関連市町村	関連基地
126	1992/4/19	視点/赤土汚染に染まる恩納村の海/元凶は米軍演習場/調査、行政指導もできず	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセ
127	1992/4/21	本年度で修復工事/恩納村海岸の赤土汚染	沖縄タイムス	恩納村	キャンプ・ハンセ
128	1992/4/30	赤土 米軍演習場から流出/恩納村海岸一帯の汚染/那覇防衛施設局が認める/早急に防止対策	琉球新報	恩納村	キャンプ・ハンセ
129	1992/5/9	赤土対策に前向き/玉城氏の要請に施設庁	沖縄タイムス	—	—
130	1992/5/22	米軍、基地機能を強化/キャンプシュワブ戦車道工事/施設内訓練場へ直結/延長1.3キロ、幅5	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
131	1992/5/22	「抜き打ち工事」に怒り/米軍戦車道/「時代に逆行だ」/宜野座村赤土防止条例にも抵触	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
132	1992/5/22	米軍が戦車道を拡幅/宜野座村名護市境界/村に通告なしに工事	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
133	1992/5/22	「米の戦車道工事は無神経」/県、実態調査に乗り出す	琉球新報(夕)	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
134	1992/5/22	「赤土がまた流れる」/宜野座 名護/戦車道建設に反発	琉球新報(夕)	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
135	1992/5/22	米軍が大規模戦車道工事/キャンプ・シュワブ/赤土流出は必至/村役場が確認/15年前に抗議	琉球新報	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
136	1992/5/23	梅雨時の工事は非常識/赤土対策を徹底指導/山あい分断、生態系破壊/県、戦車道現場を調査	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
137	1992/5/23	社説/戦車道工事の中止求める	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
138	1992/5/23	戦車道工事/演習場結ぶ道路/金武宜野座を自由往来	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
139	1992/5/23	米軍戦車道、水源地まで1キロ/雨降れば赤土汚染の懸念/名護市久志区と許田区/近日中に対	琉球新報	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
140	1992/5/23	社説/環境脅かす戦車道工事	琉球新報	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
141	1992/5/23	戦車道は10km前後か/県が業者から事情聞く/2年前から工事/宜野座	琉球新報	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
142	1992/5/24	赤土、海への流出必至/戦車道を調査、怒りの声/宜野座村漁協	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・シュワブ
143	1992/5/25	戦車道工事/関係市村に伝えず/那覇防衛施設局/米軍の連絡を黙認	沖縄タイムス	—	キャンプ・シュワブ
144	1992/5/25	戦車道復活に強い反発/米軍優先浮き彫り/地元軽視に怒り募らす	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
145	1992/5/26	戦車道に反対決議/現場視察「水源地が心配」/名護市・宜野座村	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
146	1992/5/28	戦車道工事/施設局、工法修正要求へ/赤土問題の抗議に確約	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
147	1992/5/29	米軍の戦車道拡幅工事/水源地に懸念/計画図で判明/16キロの大規模改修に着手/名護市・	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
148	1992/6/10	了解済みだった戦車道修復/米軍が1月に説明/「なにかの間違い」施設庁	沖縄タイムス	名護市・宜野座村	キャンプ・シュワブ
149	1992/6/10	戦車道で水源地汚染/名護市 施設局/現地調査始める/久志大川	沖縄タイムス(名護市	キャンプ・シュワブ
150	1992/6/10	水源地を赤土で汚染/名護市久志/戦車道工事から流出/関係者が対策協議/米軍に中止要求へ	琉球新報(夕)	名護市	キャンプ・シュワブ
151	1992/6/10	米軍戦車道工事/赤い水が使えるか!/名護市久志/無謀工事に怒り	琉球新報(夕)	名護市	キャンプ・シュワブ
152	1992/6/11	久志大川の赤土流出/原因の究明急ぐ/施設局「戦車道とは無関係」県環境保健部	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
153	1992/6/11	久志の赤土汚染/「対策が不十分」/住民ら戦車道を視察	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
154	1992/6/11	社説/赤土汚染の責任を問う	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
155	1992/6/11	水源地赤土汚染/戦車道建設に不満相次ぐ/名護市久志/議員や区長ら現地調査	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
156	1992/6/11	あすの軍特委で議題に/事態重視の名護市議会	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
157	1992/6/11	飲み水としての使用禁止/区民へ呼び掛け/濁った水に不安の声/名護市久志区	琉球新報(夕)	名護市	キャンプ・シュワブ
158	1992/6/12	原因 特定できず/地元、施設局対立のまま/久志の赤土汚染	沖縄タイムス(名護市	キャンプ・シュワブ
159	1992/6/12	農業用ダム・ボーリング工事/「流出防止は完ぺき」/名護市/施設局見解に反発/水源地の赤	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
160	1992/6/12	名護市久志の水源地汚染/原因特定できず/県の調査	琉球新報(夕)	名護市	キャンプ・シュワブ
161	1992/6/12	施設局、現地調査を拒否/名護市の申し入れ	琉球新報(夕)	名護市	キャンプ・シュワブ

No.	年月日	内容	新聞社	関連市町村	関連基地
162	1992/6/13	住民集会で阻止を/「戦車道」で名護市議会/赤土流出の究明も/軍特委 市長に要請/流出源の	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
163	1992/6/13	大規模な土捨て場/名護市議確認/PCB汚染に不安/キャンプ・シュワブ	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
164	1992/6/13	戦車道で申し入れ/上原氏(社会)が防衛施設庁に	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
165	1992/6/13	線車道工事の中止を/名護市久志の水源地汚染問題/上原氏、防衛庁に要請	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
166	1992/6/13	名護市久志の水源地汚染/戦車道との関係確認できず/県環境保健部/サイド調査を予定	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
167	1992/6/13	市民集会開催の要請を決議/名護市議会軍特委	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
168	1992/6/13	谷間に大量の土砂/名護市議会軍特委が発見/PCB含有の恐れも	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
169	1992/6/18	水源地また赤土汚染/名護市の久志大川/「大雨降る度に・・・」/市側/施設局に調査許可要	琉球新報	名護市	キャンプ・シュワブ
170	1992/6/19	名護市議会/施設局に善処要請/基地内埋め立てPCB施設撤去/環境汚染の不安訴え	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
171	1992/6/20	戦車道やめ復元を/「緑の県民会議」県に要請	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
172	1992/6/21	「赤土流出防止」に決め手なし/原因の特定非常に困難/頭痛める県庁	琉球新報	—	—
173	1992/6/26	旧戦車道からも流出確認/県環境保健部調査結果発表/「水源地は複合汚染」/久志大川赤土汚	沖縄タイムス	名護市	キャンプ・シュワブ
174	1992/6/26	「戦車道も原因の一つ」/久志区の水源地汚染/県が調査結果公表	琉球新報(夕)	名護市	キャンプ・シュワブ
175	1993/1/28	実弾演習やめよ!/モズクへの被害心配/金武の漁民「赤土流れたら網に」	沖縄タイムス(金武町	キャンプ・ハンセン
176	1993/2/4	「連絡協」を設置/県と基地関係市町村	沖縄タイムス	25自治体	—
177	1993/5/28	金武湾で赤土汚染	琉球新報(夕)	—	キャンプ・ハンセン
178	1993/5/28	ダム回復 大雨 海は赤土/泥の帯 数百メートルに/与那覇岳で160ミリ/各地で被害、事故も	沖縄タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
179	1993/5/29	海が死ぬぞ/金武町議会軍特委/基地から赤土が流出/清流だったのに・・・	沖縄タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
180	1993/6/2	水源林切り倒し戦車道/海兵隊が拡幅工事/宜野座村/赤土流出を懸念/ハンセン演習場	沖縄タイムス	宜野座村	キャンプ・ハンセン
181	1993/6/2	米軍が戦車道拡幅工事/水源かん養林100本以上切る/宜野座村松田ハンセン演習場	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
182	1993/6/2	米に事実関係の報告指示	琉球新報	宜野座村	—
183	1993/6/12	濁度計超える赤土汚染/中央会 普及所/各河川で流出調査/金武町・宜野座村	沖縄タイムス(金武町・宜野座村	—
184	1993/6/12	ハンセン基地周辺河川調査/「演習場からの赤土ひどい」/県や水産団体//防護さく機能せず	琉球新報	宜野座村	キャンプ・ハンセン
185	1993/11/18	演習場周辺河川/新型砂防ダム建設へ/那覇防衛施設局/赤土対策に本腰	沖縄タイムス	名護市, 宜野座村, 金武町, 恩納村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・シュワブ
186	1993/11/21	砲音が聞こえる/実弾演習と住民生活 26 /守るもの/環境アセス徹底へ/昔は豊かな海だった	沖縄タイムス	—	—
187	1995/1/11	三者協幹事会/赤土流出問題は議題外/米軍/調査許可の権限なし	琉球新報	—	—
188	1995/6/11	「貯留型砂防ダム」20基配置/基地12案件で処理方針/那覇防衛施設局	沖縄タイムス	名護市, 宜野座村, 金武町, 恩納村	キャンプ・ハンセン, キャンプ・シュワブ
189	1996/2/20	志嘉座ダム/村に有償返還へ/国、無償に近い額で/基地返還のモデルにも/赤土流出で必要、	琉球新報(夕)	恩納村	キャンプ・ハンセン
190	1996/4/24	全面返還合意のギンバル訓練場/浜下りで一般開放/潮干狩りに家族連れ	沖縄タイムス	金武町	ギンバル訓練場
191	1996/4/25	海はただ汚れるばかり・・・/一般に開放されたギンバル訓練場/赤土むき出し/「貝類少なく	琉球新報	金武町	ギンバル訓練場
192	1996/9/6	岩垂環境庁長官/砂防ダムに工夫してほしい/キャンプハンセンなど視察/赤土問題で対策指	琉球新報	宜野座村, 金武町, 恩納村	キャンプ・ハンセン
193	1997/2/26	米軍ずさんな護岸工事/泡瀬通信施設/土砂流出、海を汚す	沖縄タイムス	沖縄市	泡瀬通信施設
194	1997/2/27	米軍泡瀬通信施設護岸工事/工事ずさん土砂流出/漁場、定置網を汚染	琉球新報	沖縄市	泡瀬通信施設
195	1997/2/27	泡瀬通信施設土砂流出/県きょう防止策要求/漁網への影響把握できず	—	沖縄市	泡瀬通信施設
196	1997/3/2	米軍の直轄工事と環境汚染/国内法や条例の規制及ばず/初歩的な防止措置もなし	—	沖縄市	泡瀬通信施設
197	1997/3/6	泡瀬通信施設/米軍また土砂野積み/沖縄市漁協など強く反発	沖縄タイムス	沖縄市	泡瀬通信施設
198	1997/3/6	ずさんな米軍の護岸工事/防止対策せず海の汚濁進む/泡瀬通信土砂流出	琉球新報	沖縄市	泡瀬通信施設
199	1997/4/	まるで荒野ギンバルピ チ/金武町で浜下り	—	金武町	ギンバル訓練場
200	1998/3/4	赤土流出防止で緑化作戦/米軍/上空から種子散布/ギンバル訓練場	琉球新報	金武町	ギンバル訓練場
201	1998/7/21	在沖海兵隊自然・文化財保護官インタビュー /1砂防ダムはストップ/基地内文化財/考古学調	琉球新報	—	—
202	1998/7/21	砂防ダム建設の中止を/海兵隊/施設局に要請「訓練の妨げ、環境も破壊」	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン
203	1998/7/22	基地内の砂防ダム/米軍と調整し設置/防衛施設局「種子方式で防止なら良い」	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン
204	1998/8/21	赤土流出防止対策を公開/ギンバルで米海兵隊	沖縄タイムス	金武町	ギンバル訓練場
205	1998/8/21	ヘリで草の種散布/演習場着弾地/赤土流出防止を研究	琉球新報	金武町	ギンバル訓練場
206	1998/10/2	キャンプ・ハンセン/米軍が「種子」投下/着弾地の緑化も任せて	琉球タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
207	1998/10/2	赤土流出防げるか/キャンプ・ハンセン着弾地/罪ほろぼしの種子散布/米軍「砂防ダムより効	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン
208	1998/10/2	点検基地汚染/米軍の環境浄化を問う/赤土流出④/川の様相変えた実弾演習	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン

No.	年月日	内容	新聞社	関連市町村	関連基地
209	1998/10/8	点検基地汚染/米軍の環境浄化を問う/赤土流出Ⓞ/砂防ダムは訓練の妨げ	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン
210	1998/10/12	点検基地汚染/米軍の環境浄化を問う/赤土流出Ⓞ/不発弾残したまま緑化	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン
211	1999/1/20	演習場への種子散布/「赤土流出を防止」/米軍、実験成功を強調	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン
212	1999/1/21	社説/着弾地の緑化/不発弾処理も手をつけよ	沖縄タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
213	1999/1/21	米軍演習場/植栽で赤土流出防止/砂防ダムと併用効果大	沖縄タイムス	金武町	キャンプ・ハンセン
214	1999/2/4	基地汚染/「環境浄化」確認を盛る/軍転特措法見直し県案/恩納通信所二の舞いご免	沖縄タイムス	—	—
215	1999/2/4	基地の環境汚染で視察/衆院沖特委の調査員2人/関心の高まりに対応	琉球新報	—	—
216	1999/5/18	金武町/土砂流出 侵食進む海岸/2001年返還予定のギンバル訓練場/議会が視察 現状回復要請	琉球新報	金武町	ギンバル訓練場
217	1999/5/26	砲弾演習廃止2年 “傷” いえずブート岳/金武町	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン
218	1999/7/2	施設局/ギンバル訓練場の浸食来年度にも実態調査	琉球新報	金武町	ギンバル訓練場
219	2000/5/17	赤土流出など防止に努力在沖海兵隊が環境策公開	沖縄タイムス	名護市, 宜野座村, 金武町, 恩納村	キャンプ・ハンセン
220	2000/5/17	米海兵隊/山火事対策を公開/航空緑化は一定の成果も	琉球新報	名護市, 宜野座村, 金武町, 恩納村	キャンプ・ハンセン
221	2000/6/8	キャンプハンセン/航空緑化で成果/県、残りの裸地の実施要請	琉球新報	金武町	キャンプ・ハンセン